

様式第1号

会 議 録

会議の名称	令和5年度第3回所沢市高齢者福祉計画推進会議
開催日時	令和5年10月12日（木）午後3時30分から午後5時10分
開催場所	所沢市役所本庁舎6階604会議室
出席者の氏名	今城委員・林委員・高橋委員・米川委員・吉田委員 山田委員・吉本委員・渡邊委員・神藤委員・柴井委員 根本委員・山下委員・佐藤委員・浅倉委員・瓦谷委員
欠席者の氏名	大島委員・岡田委員・中澤委員・小貫委員・矢島委員
議 題	(1) 第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について (2) 地域包括支援センターの運営状況について (3) 地域包括支援センターの事業評価について (4) 報告事項等
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 資料1-1 第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について（推進プロジェクトの結果報告） 資料1-2 第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について（計画素案） (3) 資料2 地域包括支援センターの運営状況について (4) 資料3 地域包括支援センターの事業評価について (5) 令和5年度第2回所沢市高齢者福祉計画推進会議 会議録（写し）
担当部課名	福祉部 前田部長・内野次長 高齢者支援課 (溝井課長・中林副主幹・森田主査・小原主査・高安主任・水間主任) 介護保険課 (青森副主幹・森主査・今泉主査・森田主査・関口主査) 保健医療課 (河西課長) 国民健康保険課 (石川課長) 健康づくり支援課 (岩雲課長) 事務局 福祉部高齢者支援課

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会</p> <p>議事録の作成方法について、要約方式、委員名無記名とし、委員長の確認により確定することについて委員の了承が得られた。</p> <p>委員により会議の公開が了承され、傍聴人が入場する（1名）。</p>
	<p><u>議題（1） 第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について</u></p>
事務局	<p>資料1-1、1-2に基づき、推進プロジェクトの結果報告及び第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の計画素案に関して説明を行う。</p>
委員長	<p>質疑等はあるか。</p>
委員	<p>令和7年には5人に1人が認知症になるといわれているため、認知症施策は大切だと思う。所沢市主催でのキャラバン・メイト養成講座の開催については、所沢市は認知症サポーターの数が多いと聞いているが、認知症サポーターを養成するための講師が増えることで、より多くのサポーターが誕生し、認知症になっても住みやすい市になり、大変有効だと思うので、是非推進してほしい。</p> <p>ケアプランデータ連携システムについては、現在、介護保険の請求などの事務的な手続は全て手書きとなっているため、PC入力にしてデータを連携することで、効率が上がり、地域包括支援センター職員の負担が軽減できると良い。保健センターでは、窓口業務を委託業者をお願いし、専門的知識が必要なところは専門職が担うなどの役割分担をしているため、委託業者等を活用した</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>業務の整理も必要だと思う。</p> <p>居宅介護支援事業所への介護予防支援の指定対象の拡大については、課題はあると思うが、地域包括支援センターの負担軽減のためには必要な取組だと思う。</p> <p>柔軟な職員配置については、保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士の配置は人材確保が困難であるため、非常勤等の採用も検討すると良いと思う。</p> <p>特別養護老人ホームについては、資金面の問題により施設入所が難しい高齢者もいるため、最後のセーフティネットといわれる特別養護老人ホームに、個室より低廉な料金である多床室の選択肢を用意することで配慮するなど、引き続き検討してほしい。</p> <p>認定調査の効率化に向けた取組については、認定調査員は各家庭を訪問して聞き取り調査をするなど業務の負担が大きく、人材も不足している。タブレット等の活用により業務の効率化を図ることで、適正な調査の実施ができると良い。</p> <p>推進プロジェクトでは様々な意見が出ており、有効なものも多いと思うので、引き続き検討し計画に反映してほしい。</p>
委員長	<p>認定審査については、紙ベースの書類が多く見受けられるので、ゼロカーボンシティに向けた取組を検討してほしい。</p>
委員	<p>認知症サポーターを増やすための取組における小中学校に対するアプローチについては、2025年問題に向けて、認知症サポーター養成講座を各学校に推進できると良いと感じた。社会福祉協議会では、地域の民生委員や障害者と協働し、市内の小中学校の福祉学習を実施しているが、学校により温度差があり、プログラムを組み込んでいる学校とそうでない学校に分かれているため、認知症に限らず、市内全ての小学校と中学校に福祉学習を推進していきたいと思っている。</p> <p>8050問題など、現在は複合的な課題を抱えた世帯が多く、そのような世帯は、地域包括支援センターだけでなく、様々な機関との連携が必要になる。社会福祉協議会では市内の11行政区にコミュニティソーシャルワーカーを配置し、各地域に出向いて問題を</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>把握して必要な機関につないだり、伴走的な支援をしたりしている。地域福祉計画においてもコミュニティソーシャルワーカーについての記載があるため、本計画においても、計画素案のP73辺りにコミュニティソーシャルワーカーとの連携についての記載を検討してほしい。</p> <p>山口地区では、民生委員などが参加して月1回会合を開き、高齢者に優しい地域になるにはどうしたらよいかなどについて話し合い、まちづくりセンターにおいて、認知症患者や障害者、独居高齢者などと一緒に花壇やベンチ等の作成をしている。他地区においても様々な取組をされていると思うが、情報が入ってこないため、社会福祉協議会を通じて地域での活動をPRし、共有すると良いと思う。</p> <p>入所したばかりの高齢者は、家に帰りたいという気持ちから、施設の外に出て迷ってしまうこともあるので、トコロんおかえりQRについての普及啓発もお願いしたい。</p>
事務局	<p>コミュニティソーシャルワーカーについては、計画素案のP120「図表－協議体の構成」の表中に記載している。P73に盛り込めるかはこの場では即答できかねるが、地域包括ケアシステムをつくるための重要な役割の一つとなるので、検討したい。</p> <p>山口地区の取組については、生活支援体制整備事業のなかでベンチプロジェクト等の動画を作成し、市でPRしている。また、各地区では地域ケア会議を開催し、それぞれの地域課題に対する取組を行っており、地域包括支援センターの運営会議や生活支援コーディネーターの連絡会等の横の繋がりで情報共有をしている。良い取組を取り入れる仕組みはできていると思うので、引き続き連携しながら取り組みたい。</p> <p>トコロんおかえりQRについては、年間約100枚の販売実績がある。本計画にも掲載し、各種イベント等でも周知しているが、引き続き普及啓発に取り組みたい。</p>
委員	<p>総合相談支援業務の部分委託について、居宅介護支援事業所で</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>は、道が分からなくなってしまう高齢者などが唐突に訪ねてくることがある。居宅介護支援事業所には相談スペースがあるので、そのような場を活用することも地域包括支援センターの負担軽減につながると思う。</p> <p>ケアプランデータ連携システムについて確認したいが、市と地域包括支援センター、地域包括支援センターと委託を受けている居宅介護支援事業所間のデータを連携するシステムになるのか。</p> <p>ケアプランデータ連携システムは、ケアマネジャーとサービス事業者がオンラインで給付管理に必要なデータ等をやり取りするシステムになり、給付管理のための作業負担を軽減するためのものになる。効果最大化のためには全事業所が同じシステムを導入する必要があることから、すぐに実現することは難しいといった課題がプロジェクト会議上で挙げたが、周知することは大事だと考えている。</p>
委員	<p>高齢者大学からリニューアルされたシニア・アカデミーについて、「シニア・アカデミーの講座を通し今後につながる地域活動を『見つけることができた』又は『見つける方法がわかった』と回答した受講生の割合」が、令和4年度実績で70%と多くいるようで嬉しい。元気な高齢者が地域で活躍できる場があると良いと思うので応援したい。</p>
委員	<p>計画素案のP91について、昨今では「徘徊」と表現することを改める動きが広がっている。また、「第9期の展開」では、「迷子のお子さんやペットが行方不明になった際にも利用が可能であるため」と書かれているが、徘徊高齢者とペットを同列に置くことはいかがなものかと思う。ペットはICチップを埋め込むことが主流となるため、高齢者にもICチップを埋め込むと誤解を招かないような表現を検討してほしい。</p> <p>P95の「第9期の展開」において、「また、医療・介護関係者が連携・安心して…必要な支援を行っていきます」とあるが、具体的な内容を記載してほしい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	P91 についての表現は、現在検討中である。
事務局	P95 については、具体的な記載内容を検討し、次回の会議の素案においてお示しする。
委員	P91 については現在表現を検討中ということだが、このような文章を掲載していることに違和感がある。
事務局	<p>地域でみまもり支え合い事業については、広く認知を図ることが重要なため、様々な広報活動を行っている。高齢者だけではなく、若い方や子どもを含めて知ってもらう必要があるためこのような記載をしたが、事前に表現についての指摘があったため、現在検討しているところである。</p> <p>議題（2）地域包括支援センターの運営状況について</p>
事務局	資料2に基づき、地域包括支援センターの運営状況及び地域包括支援センターの人員配置基準の例外的取扱いについて報告した。
委員長	本日欠席の委員より、地域包括支援センターの人員配置基準の例外的取扱いについて意見をいただいているので、事務局より代読をお願いします。
事務局	<p>（欠席委員からの意見を代読）</p> <p>令和5年10月6日開催の所沢市民間高齢者福祉連絡協議会第1回定例会において、参加法人から「所沢市より受託している地域包括支援センター職員の人員配置について、産休・育休を取得し復職予定の職員の勤務について、高齢者支援課と協議している。当該職員より、復帰明けの時短勤務を希望されており、法人としては了承したいが、高齢者支援課に確認したところ、1日8時間×5日勤務の常勤配置でないと駄目との見解が示された。女性の社会進出や働き方改革の観点から考えても、産休・育休取得後の職</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>員の異動や退職がないような対応が必要と考える。次回の会議にて、提言をお願いしたい。」との意見があった。</p> <p>地域包括支援センターは地域の相談窓口として重要な業務であり、欠員が出ないようにとの考えは正論ではあるが、一方で、経験と資格のある職員が育児をしながらキャリアを活かして勤務を続けるための支援策を構築していく必要が今後ますます求められると考えている。また、いずれの法人福祉施設でも人員不足に悩まされており、毎回のように定例会議で話題になっている現状から、異動や退職者が出た場合の後任の補充は非常に難しいことは容易に予測され、危惧している。数時間の勤務時間短縮で戦力外になることはないことを現場の職員が認識し、サポート体制が取れるのであれば、異動・退職などすることなく、勤務継続が望ましいのではないかと。柔軟な対応を切に願う。</p>
委員長	<p>ただ今の意見について、事務局より回答をお願いする。</p>
事務局	<p>ご指摘の通り、現在の運用では経験豊富な職員が法人内での異動や退職を強いられる状況が発生してしまうため、見直しが必要だと考えている。今後も現場の声を定期的に聞き、柔軟に対応したいと思う。</p>
委員	<p>I C T活用が謳われているので、オンライン会議や Wi-Fi の設置などによる在宅勤務も考えられると思う。</p>
事務局	<p>地域ケア個別会議については、地域によりオンライン会議を活用しているところもあるため、オンライン等を活用した地域包括支援センターの業務負担軽減を検討していきたい。</p>
委員	<p>P 2 「令和 5 年度 介護予防支援の実施状況」について、この表を見ることで地域包括支援センター別の月ごとの実施件数は分かるが、前年との比較ができず、対前年の結果やその特徴などが分からない。介護予防支援の進展状況や取組による評価のコメントがあるとよい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	再集計して分かりやすいようにお示しする。
委員長	<p>他に意見がないようであれば、地域包括支援センターの人員配置基準の例外的取扱いについては事務局の説明のとおりでよいか。</p> <p>（異議なし）</p>
<u>議題（３）地域包括支援センターの事業評価について</u>	
事務局	資料３に基づき、地域包括支援センターの事業評価について説明した。
委員長	質疑等はあるか。
委員	「地域包括支援センターの事業評価 レーダーチャート」について、川越市、越谷市、さいたま市などの近隣市と比較できる資料が掲載されているとよりわかりやすいと思う。
事務局	近隣市とは介護予防に関する情報交換会を定期的実施しているが、議題として挙げることができず、データを入手することができなかった。また機会があれば提案していきたいと考えている。
<u>議題（４）報告事項等</u>	
（報告事項等なし）	
本日の議事は以上で終了とする。	
閉会	